

## 賛助会員からの声 2023

月刊「省エネルギー」に掲載した「賛助会員からの声」をご紹介します。

賛助会員入会の動機や会員サービスについてのご意見を寄稿いただきました。

賛助会員入会ご検討にお役立てください。（部署名、所属、役職名等は掲載時の情報です。）

2023年5月号掲載 日本検査キューエイ株式会社 様

国内初の認証機関として 品質・環境・経営の向上を支援

国内初の認証機関として  
品質・環境・経営の向上を支援

日本検査キューエイ株式会社  
執行役員営業部長 兼 公開研修センター長 兼 GHG 検証部理事 光守 健  
本部地区会員（2023年4月入会）



### <会社紹介>

当社は、1992年に民間で日本初のISO認証を行う会社として設立されました。ISOマネジメントシステムの審査を中心に、JIS製品の認証、GHG排出量の検証など、幅広く取り組んでいます。

ISOでは、品質のISO9001、環境のISO14001をはじめ、労働安全衛生、情報セキュリティ、食品安全、航空宇宙など多岐にわたる分野で約4,000もの登録組織の審査をしています。鉄鋼メーカーを主体に設立された経緯から、現在も鉄鋼をはじめ製造業分野で多くの組織に登録いただいています。審査は150名の社員審査員が中心に実施し、認証

機関の立場で中長期的に経営や事業を支援し、経営のお役に立てる審査機関を目指しています。

GHG排出量の検証では東京都・埼玉県の各制度に基づく排出量の検証、また経済産業省の国内クレジット制度、環境省のJVETS/ASSET/SHIFT事業等の検証を制度開始当初より多数行ってきました。東京都の検証機関評価制度においては2019年度、2021年度に優良検証機関として評価いただいています。また、最近ではカーボンニュートラル時代を踏まえ、環境報告書やサステナビリティレポートの検証、CDP回答へ対応するGHG排出量の検証、企業が販売するグリーン製品の信頼性を向上させるための各種検証など、プライベートな検証のニーズも大きく増えています。個別の要請もお聞きした上で対応し、幅広いニーズにお応えしていきます。

### <賛助会員サービスについて>

今回、賛助会員に加わり、省エネルギーセンターから提供される脱炭素のソリューション技術に関する情報などから、皆様とともに学んでいく所存です。

2023年7月号掲載 株式会社ヤクルト本社 様

省エネに継続的に取り組み 地球環境の保全に積極的に貢献

省エネに継続的に取り組み  
地球環境の保全に積極的に貢献

株式会社ヤクルト本社  
中央研究所 事務部 施設管理課  
係長 川村英生  
本部地区会員（2022年7月入会）



### <会社紹介>

株式会社ヤクルト本社中央研究所は、1955年に設立された国内唯一の研究所です。「予防医学にもとづき、有用微生物を利用して、生体調節機能をもった食品、医薬品、化粧品の開発を通じて企業理念の実現を果たす。」をテーマに、ヤクルトグループの企業理念「生命科学の追究を基盤として、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します。」の実現を目指しています。研究開発力の強化を目的に、2006年～2015年、段階的に大幅なリニューアル工事を実施し、2016年に全面稼働しました。

ヤクルトグループでは2021年3月に、2050年のあるべき姿として、人と地球の共生社会の実現を目指す「ヤクルトグループ環境ビジョン」を定め、バックキャスト

グ思考に基づいた中短期のマイルストーンも策定し、実効性のある取り組みを推進しています。その中で中央研究所では、2016年以降、社外の先進的取り組みの習得や外部専門家の支援、省エネ大賞受賞製品等の活用といった様々な省エネルギー活動に継続的に取り組んでいます。

### <入会の動機と賛助会員サービスについて>

外部専門家からの紹介で省エネルギーセンターに相談に伺ったところ、丁寧な対応と的確な助言をいただいたことがきっかけで入会を決めました。

賛助会員サービスでは、月刊「省エネルギー」だけではなく、毎週配信される「賛助会員メールマガジン」にてセミナーや展示会の案内といった省エネルギー関連の最新情報を得ています。また、賛助会員専用のホームページにて他社の省エネ事例などを参考にさせていただいており、省エネルギー活動を継続していく上で必要不可欠なものとなっています。

今後もヤクルトグループでは、「環境ビジョン2050」の達成に向けて、全社一丸となってコーポレートスローガンである「人も地球も健康に」に基づき、地球環境の保全に積極的に貢献していきます。

## 2023年8月号掲載 旭化成建材株式会社 様

### 最先端の技術を取り入れ 省エネ・CO<sub>2</sub>削減をさらに加速

#### 最先端の技術を取り入れ 省エネ・CO<sub>2</sub>削減をさらに加速

旭化成建材株式会社  
穂積工場長 織部篤樹  
東海地区会員（2023年2月入会）



#### <会社紹介>

当社は旭化成株式会社の事業会社であり、ALC（軽量気泡コンクリート）製品、鉄骨構造用資材、杭基礎、断熱材の事業を展開しています。

代表的な製品であるALCパネル「ヘーベル」は、幅広い分野で壁材、間仕切り材、ヤネ・ユカ材として利用されている建材です。ALCは耐火性、断熱性、遮音性、耐久性などに優れ、さらに軽量で施工性が良いことから日本の風土や建築事情に最適な建材として、長年にわたり高い評価をいただいています。また、割石調デザインパネルの「ジーファス」はグッドデザイン賞を受賞した人気シリーズとして大変好評をいただいています。穂積工場は、このヘーベルの生産拠点として重要な役割を果たしています。

省エネ、CO<sub>2</sub>排出量削減に関する近年の主だった取り組

みでは、ボイラ燃料の重油からガスへの転換、ボイラの台数制御による小型化が挙げられます。特に、多量の蒸気を使用するヘーベルの製造工程においては大きな改善効果が得られました。これらの取り組みは、当社のグループビジョンである「環境との共生」の実現に向けての活動の一環であり、日々活発に取り組んでいます。省エネ活動は私たちにとって重要な課題であり、持続可能な社会を実現するために不可欠な取り組みです。

#### <入会の動機と賛助会員サービスについて>

省エネとCO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みを進める上で、自社の技術や知識だけでは限界があります。より効果的な進展を図るためには、世の動きに敏感になり、最先端の技術を取り入れることが重要です。省エネルギーセンターから提供される有益な情報の数々は、私たちの省エネ活動を大いにサポートしてくれます。また、省エネ活動には個別の取り組みだけでなく、組織全体の共通認識と行動の変革が求められます。技術情報の共有やセミナーを通じて従業員の意識を高めるためにも活用しています。

今後も積極的にこれら会員サービスを活用し、ALCメーカーとして業界の先頭に立ち、取り組んでいきます。

## 2023年9月号掲載 株式会社サンワコン 様

### 顧客とともに立ち 技術と創造で 新たな社会の発展に貢献

#### 顧客とともに立ち 技術と創造で 新たな社会の発展に貢献

株式会社サンワコン  
エネルギー開発部  
部長 辻隆治  
北陸地区会員（2018年5月入会）



#### <会社紹介>

弊社は、震災・震災で壊滅的な打撃を受けた福井市街地の復興事業をお手伝いする会社（測量、設計、区画整理事業等）として1949年に福井市で創業しました。以来、総合建設コンサルタント業として、行政を中心にインフラ整備やまちづくり事業をコンサルティングすることにより、地域やまちの持続可能な開発・発展に貢献しています。

さらに省エネや再エネの分野での事業進出も模索し、2017年には「エネルギー開発部」を設置して、省エネ診断や対策提案、再エネ導入支援等の取り組みを本格化しました。2021年には、合同会社を設立して取り組んだ小水

力発電所も稼働を始めています。

自身の襟を正すわけではありませんが、本社社屋は再エネ100%の電力を使用しているほか、社用車にEV車両を導入するなど、地道にゼロカーボンを目指しています。

#### <入会の動機>

省エネや再エネ分野の事業を本格化するに当たり、まだまだ不足する知識、能力を補うため、最新情報の入手、診断技術のレベルアップ、専門家や企業とのネットワーク形成などが必要と考え入会しました。

#### <賛助会員サービスについて>

これまで、いくつかのセミナーを受講しましたが、コロナ禍にあって、WEBでの受講は非常に有用でした。月刊「省エネルギー」の情報と合わせ、引き続き様々な情報を活用していきたいと考えています。

また、今後は、北陸地区の皆さんとの人的ネットワークも築きながら、地域のインフラ・まちづくり&省エネ・再エネのコンサルタントとして、地域からのゼロカーボン社会の実現に貢献していきたいと考えています。

輸液製造工場の ユーティリティ設備のDX化と 脱炭素社会への貢献

輸液製造工場の  
ユーティリティ設備のDX化と  
脱炭素社会への貢献

株式会社大塚製薬工場

生産本部 工務室 係長 古川直樹  
四国地区会員 (1980年4月入会)



<会社紹介>

当社は、1921年に創立された「大塚製薬工業部」を前身とする大塚グループ発祥の会社であり、75年以上にわたり輸液事業に取り組み、輸液のリーディングカンパニーとして、日本の輸液開発をけん引してきました。“The Best Partner in Clinical Nutrition”（臨床栄養領域における患者さんや医療従事者のベストパートナーを目指す）を経営ビジョンとし、医療用医薬品、医療機器のみならず、経口補水液をはじめとするメディカルフーズ<sup>®</sup>、OTC医薬品（一般用医薬品）など、さまざまなニーズに対応した革新的な製品を創造し、日本・アジアを中心にグローバルな事業を展開しています。

国内の輸液の生産拠点は、鳴門工場、松茂工場（徳島県）、釧路工場（北海道）、富山工場（富山県）の4工場があります。輸液の製造には、クリーンな製造環境を維持するための空調に大きな電力を必要とし、また、注射用水の製造から製品の滅菌まで蒸気を使用することから、電/熱エネルギーの合理的な使用が求められています。これを実現するため

に、省エネ活動はもちろんのこと、燃料転換及びガスコージェネレーションシステムの導入ならびに太陽光発電設備の導入を積極的に行っています。燃料の脱重油、ガス化は全工場で完了し、鳴門、松茂、富山の3工場ではガスコージェネレーションシステム、釧路工場では自家消費型大規模太陽光発電がそれぞれ稼働しています。

また、2021年12月には全工場にSCADA（監視制御システム）と監視カメラを導入し、発電設備を含むユーティリティ設備を松茂工場で集中監視する体制を構築しました。このシステムを活用して各工場のエネルギー需給最適化やディマンドリスポンスを図るなど、今後も脱炭素社会へ貢献してまいります。

※ 私たちは、医学的・栄養学的根拠を基に開発した医療の場で役立つ食品を「メディカルフーズ」と呼んでいます。

<賛助会員サービスについて>

賛助会員サービスでは、月刊「省エネルギー」の送付以外にも、「賛助会員メール」が配信されます。先進的な省エネルギーの取組事例をはじめ、省エネアイテム・技術紹介の他に、セミナー・展示会の案内、書籍の紹介があります。また、ホームページには賛助会員専用ページがあり、過去の省エネ事例集や省エネ法関連の解説・関係諸官庁へのリンク先も一覧化されています。賛助会員サービスは、貴重な情報収集のツールとなり当社のエネルギー管理に役立っています。

省エネ・CO<sub>2</sub>排出削減に 積極的に取り組み 地球環境保全に貢献

省エネ・CO<sub>2</sub> 排出削減に  
積極的に取り組み  
地球環境保全に貢献

清本鉄工株式会社

鋳鋼事業本部 武雄工場  
工場長 坂口 秋義  
九州地区会員 (2023年7月入会)



<会社紹介>

弊社は1937年創業以来、社会や顧客ニーズに合わせた事業展開を行い、「エネルギー・インフラ・食・環境」といった多角的な分野で熟練された技術と高い生産力・施工力をもって、顧客の生産活動と社会インフラストラクチャー基盤を支えています。また、独自の高い専門性やネットワークを持つ関連会社を国内に7社、国外に5社展開しており、グループ全体で1,100名余の従業員を有した企業グループを形成しています。

鋳鋼事業本部は、武雄工場、伊万里工場、大連工場の3つの生産拠点、そして、ハイレベルな協力工場を含むネットワークにより、船舶・海洋部品・発電用タービンケーシング・産業機械部品・クラッシャー部品・橋梁部品など数

十kgから数十tにわたる大小様々な鋳鋼品の製造を可能にしています。

以前は、第二種エネルギー管理指定工場に指定されていましたが、中長期計画に基づき、2015年に熱処理設備を最新型の排熱回収を利用したリジェネレーター搭載の設備に更新するなどの施策を実施して以降、エネルギー消費量は1,500kL未満で推移し、現在は指定工場対象外となっています。今後も引き続き、省エネルギー・CO<sub>2</sub>排出削減に向けた施策検討・実施を進めていく所存です。

<入会の動機と賛助会員サービスについて>

省エネに関する動向、技術情報や講習情報、他社における省エネの取り組み状況等の情報を得るため、入会しました。把握すべき情報を入手する媒体が弊社に不足しているとの認識から、省エネルギーセンターから提供される有益な情報を活用し、自社だけでは取り組むことが困難な活動へ活かしていきたいと考えます。また、省エネ活動で欠かせない基礎知識の習得など従業員個々の力量向上のために講習などを積極的に活用し、社として一丸となって今後の省エネルギー活動を進めて地球環境保全への貢献へつなげて参ります。

## 2024年1月号掲載 北ガスジープレックス株式会社 様

### お客さまの課題解決とともに 安全で快適な社会の創造に貢献

#### お客さまの課題解決とともに 安全で快適な社会の創造に貢献

北ガスジープレックス株式会社  
エネルギー開発部 設計監理グループ  
マネージャー 本宮唯嗣  
北海道地区会員（2023年4月入会）



#### <会社紹介>

当社は北海道ガスのグループ会社として1972年に誕生し、昨年、創立50周年を迎えました。創立以来、北ガスグループにおけるガス配管工事の専門会社として、屋外のガス導管敷設工事や建物内のガス配管工事、法令に基づく定期保安巡回やガスメーターの取替等のガス導管網維持管理業務を中心に、ガスの安全・安心・安定供給に向けた事業を日々展開しています。さらに近年はこれまでの経験で培った技術を生かし、空調設備工事を中心にエネルギー設備機器工事の積極的な展開を図ってきました。

北ガスグループでは新たな経営計画として「Challenge

2030」を策定しました。2050年カーボンニュートラル（脱炭素化）時代を見据えた2030年までの取り組みとして「エネルギーと環境の最適化による快適な社会の創造」に向けて、様々な施策の取組を進めています。当社も安全で強靱なエネルギー供給インフラの構築とお客さまのニーズにあわせたエネルギーソリューション事業の展開により、安全で快適な社会の創造に貢献していきます。

#### <入会の動機と賛助会員サービスについて>

当エネルギー開発部はGHP空調設備工事を中心に事業展開を行ってきましたが、昨今、高まりつつある総合エネルギーサービス事業関連へのお客さまのニーズに対応するには、省エネに関する知見を深める必要があります。賛助会員サービスを通じ、最先端の省エネ技術情報や省エネ事例など多くの有益な情報を収集し、お客さまへのエネルギーに関する課題解決提案につなげています。今後もエネルギー使用状況のモニタリングや問題点の把握、さらには省エネ機器の導入や運用改善などの提案を推進し、カーボンニュートラル社会実現へ貢献したいと考えています。

## 2024年1月号掲載 京和テック合同会社 様

### 空調省エネの「スマートソリューション」を提案し、カーボンニュートラル実現の一助に

#### 空調省エネの「スマートソリューション」を 提案し、カーボンニュートラル実現の一助に

京和テック合同会社  
代表社員 稲垣友樹  
近畿地区会員（2023年6月入会）

#### <会社紹介>

弊社は2022年11月、大阪・天満橋において省エネ製品の提案・研究を主たる業務として開業しました。創業前より省エネサービスの提供を通してカーボンニュートラル社会の推進へ貢献し、尽力してきました。2022年2月のウクライナ侵攻を発端にしたエネルギー価格の上昇・地政学的な危機の状況下で、国内における省エネ施策やGX等への意識は大きく変わりました。弊社もその中で、大電力を消費する既設空調の省電力化技術「R-Oneo」の販売を中心に社会貢献を果たしていこうと邁進しています。

また、電力をミニマムで、さらに遠方監視するシステム「ET-Viewer」の実証テストを大阪府市で行い、24時間

365日の末端機器電力の機械的管理が可能になりました。さらに設備機器のCO<sub>2</sub>排出量もクライアント様側だけでなく弊社でも監視し、今後のカーボンクレジット活用の一翼を担うことができるよう技術研究を進めています。

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、省電力施策を永く維持すること、省エネ効果を見える化し数値化できることなど、他にはない提案力をクライアント様から高く評価していただいています。

#### <入会の動機と賛助会員サービスについて>

コスト削減は社会の永遠の課題となっています。人的コスト削減、多岐にわたる合理化等のコスト削減。それに加えて、エネルギーコスト削減が求められています。その対応の基軸となる省エネ施策の考え方をさらに発展させたいとの思いで入会しました。

月刊「省エネルギー」には現状を知り、省エネ施策を考える上でのヒントが多数あり、魅力ある情報誌です。賛助会員向けサイトには、新製品・サービスを紹介できるページもあり、入会したことを嬉しく思っています。

ネットゼロエネルギー空調で  
快適な住環境を実現し  
カーボンニュートラルに貢献

株式会社アースクリーン東北  
代表取締役 今野 賢一  
東北地区会員（2022年10月入会）



<会社紹介>

弊社は1989年7月に仙台市で起業し今年で創立35年となります。より快適な空気環境を追求するとともに、地球温暖化防止に貢献できる商品をこの東北の地から、との思いを社名に込めました。空調コストを削減し、ノンフロン化を進めるネットゼロエネルギー空調システムでカーボンニュートラルに貢献する空調機メーカーです。

ネットゼロエネルギー空調機では湿度と温度を分離制御します。従来の空調機は全熱（温度と湿度）を冷却・加温する方式が主流であり、かつフロンガスを利用した方式がほとんどです。弊社はそれを見直し、湿度（潜熱）と温度（顕熱）を別々に処理する研究開発に挑戦しました。湿度については、産学官連携により新しい吸着剤「スポンジ酸化チ

タン除湿剤」を開発。従来の除湿剤（シリカゲル）では吸着させた水分を再利用するために100～140℃の高温が必要でしたが、この新除湿剤では40～60℃での水分脱着を実現しました。温度は水が気化するときに熱をうばう原理を応用し、課題だった湿度移行をせずに冷却する構造体を開発しました。スポンジ酸化チタン除湿剤（ローター方式）と気化冷却器（商品名：メガクール）の組み合わせで、ヒートポンプの排熱や未利用排熱、ソーラー温水等を有効利用し、少量の水で気化冷却できます。

デシカントローターとメガクールシステム空調機によるネットゼロエネルギー空調機を国内はじめ世界中に技術提供していくことが目標です。

<入会の動機と賛助会員サービスについて>

省エネルギーに貢献する目的で賛助会員に加入している皆様に弊社商品を広く知っていただき、活用していただきたいと入会しました。昨年はシンガポール、タイ向けに省エネルギーセンターが開催したセミナーで講演する機会に恵まれ、高い関心を持っていただきました。今後も会員の連携により省エネルギー推進に寄与する技術や商品を広めていく機会が多くなるものと期待しています。